

## 会頭あいさつ

東京商工会議所 会頭

# 三村 明夫



わが国経済は、アベノミクスの成果が現れ、総じて緩やかに改善しています。一方で、人手不足が深刻な課題になっており、これまでマイナスで推移してきた需給ギャップも足元でプラスに転じるなど、今後、さらなる経済成長を実現するためには、供給力が制約要因となる段階になりつつあります。

こうした点を踏まえると、今後は、サプライサイドにより多くの光を当て、中長期的に潜在成長率の3要素である生産性、資本ストック、労働力を向上させ、供給力を引き上げていくステージに変わってくると言えます。

政府には、サプライサイド強化に向け、企業活動を後押しする環境整備を迅速かつ強力に推進することを期待しておりますが、経済成長の主役は、あくまで民間企業であります。経営者自らがデフレマインドを払拭して積極的な経営姿勢に転じることが、経済の好循環をもたらし、日本経済再生と地方創生の実現につながります。

日本経済は、石垣が大中小の石がしっかりと組み合わせられているように、大企業と中小企業が相互に連携することで強さを発揮しています。特に、全企業数の99.7%を占め、全労働人口の約7割を雇用するなど、日本経済を支える中小企業が大きな課題に直面しつつも、自らイノベーションを起こし、勇気ある挑戦を行うことが日本経済の成長の

ために不可欠です。

今回で第15回目を迎える「勇気ある経営大賞」は、過去に拘泥することなく理想を追求し、常識を打破しつつ高い障壁に挑むなど“勇気ある挑戦”を称える、他に類のない賞です。応募のあった155社の業種や業態は、さまざまでしたが、いずれの中小企業も、経営者の高い志と独創的なアイデアや工夫を持って、課題に挑戦する企業ばかりでした。

とりわけ、今回、受賞された企業は、深刻化する人手不足に対し、知恵を振り絞り、課題に果敢に挑戦し乗り越えた企業や、新たな石油資源を必要としない究極の循環資源の実現に向け取り組んだ企業など、後に続く中小企業に勇気を与え、成長に向けたイノベーションを体現した好事例であります。

また、今回は、惜しくも選に漏れた企業も多くありましたが、応募企業の水準が年を追うごとに高まってきていることを実感しており、大変喜ばしく思います。ぜひ、次回以降も積極的な応募を期待しています。

末筆となりましたが、受賞されました企業各社の一層のご活躍にご期待申し上げるとともに、本賞の実施にあたり、ご推薦をいただきました関係各機関、ならびに選考に携わっていただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。